

○沖縄本部園研修参加者の研修報告書

沖縄本部園訪問研修報告書（管理部長 柳生朋秀）

研修報告に先立ちまして、今回の研修参加に当たり、快く引き受けてくださった本部園理事長様、施設長様、事務長様や職員の皆様、留守中のご対応をご協力いただいた白寿苑の職員の皆様には大変感謝いたしております。お陰をもちまして無事研修日程を終了し、充実した研修を終えることができました。心よりお礼申し上げます。



さて、今回の本部園訪問研修ですが、まず報告したいのが研修中の宿泊所の設備についてです。たとえ数日間とはいえ慣れない環境下で研修を行う際の体調管理には気を遣うものですが、本部園様にご用意いただいた宿泊所は設備が行き届いており安心して研修に臨むことができました。6畳二間の畳部屋に加えて、トイレ付きの浴室、テレビ、冷蔵庫、ポットなど必要なものはほとんどご用意いただけており感謝しきりでした。今後訪問させていただくことになる白寿苑の職員も安心して送り出すことができると感じました。

本部園訪問初日は日曜日の夜間、しかも雨降りの中にもかかわらず事務長様、介護課長様、生活相談員様はじめ多くの職員の方にお出迎えいただき大変有り難く感じました。一通りご挨拶をさせていただいた後、早速事務長様に地元の海鮮料理店にお連れいただき緊張を取りほぐしていただいたお心遣いにも感謝いたします。そして、前述の設備の行き届いた宿泊所でゆっくりできたこともあり翌日からの研修に万全の体制で臨むことができました。

研修初日は、午前中に国吉園長様から法人の沿革や施設の方針について詳細にお話しいただきました。普段園長様は外部での活動が多いとのことで、通常幸地事務長様が施設運営を取り仕切っているとのことで、お二人の間での信頼関係の強さを感じました。また、命令・承認・報告等の責任範囲がはっきりしているという点では、各部署での職員配置や勤務変更、有給休暇申請の承諾等も各部署の課長が判断しているというのが非常に合理的でぜひ白寿苑でも検討したいすばらしい点だなと感じました。園長様よりお話しいただいた、職員一人一人を大事にすることでそれに伴う利用者処遇へのフィードバックも相乗効果で期待できるという話にも考えさせられました。他にも老人福祉法第二条の「基本的理念」老人は、多年にわたり社会の進展に寄与してきた者として、かつ、豊富な知識と経験を有する者として敬愛されるとともに、生きがいを持てる健全で安らかな生活を保障されるものとする、を常に心掛けているとのことで、同じ老人福祉に携わっている者として今一度考える必要があると思いました。

引き続きお話しいただいた幸地事務長様からは、衛生管理体制や事務長の役割等についてご説明頂いた。園長様からの話にもあったように本部園様の施設運営の中心は理事長様、施設長様の理念の元、事務長様を取り仕切っていらっしゃるため、ほぼすべての業務に関わっているというのがまず白寿苑とは違っているとして見習う点が多くあると感じました。自分自身同様に施設長のサポートという位置づけはあるものの、責任感という意味では段違いに重い物であると感じました。施設整備や雇用関係についても常に新しい有益な情報に注意し、活用できる助成金や奨励金は最大限活用するよう研究を重ねてみえる点も考えさせられました。こういった情報を得るには日常的に官公庁の職員とのコミュニケーションを密に取る事が重要で時間が空くと役所や職安に足を運んでいるという話も参考にさせていただこうと思います。

また、職員処遇という点では実に充実しており、行事における振替申請の奨励や年次有給休暇の取得推進、慶弔関係では結婚・出産時はもちろん新築祝いもあるとのことで風土の違いもさることなが

コミュニケーションを密に取る事が重要で、時間が空くと役所や職安に足を運んでいるという話も個人的に参考にさせていただこうと思います。

また、職員処遇において、慶弔関係では白寿苑でも行っている結婚・出産時のお祝いはもちろんですが、その他に新築祝いもあるとのことで風土の違いもさることながら職員がより働きやすい環境作りに積極的に取り組んでいるという実態を見せていただきました。風土の違いといえ他にもいくつか話題があり、まずご利用者様をはじめとする沖縄の方の多くが浴槽に浸かる習慣がないということが上げられます。ですので冬でもシャワー浴であったりかけ湯であったりと入浴する様子も様々です。他には利用者様がお亡くなりになった際、施設側から弔問等はもちろんですが、別に新聞広告にお亡くなりになった旨の掲載を依頼するそうです。実際の新聞も見せていただきましたが、ご家族が出される訃報広告（正式名称ではありません）に続いて施設側からも並べて広告として載せてありました。これらは沖縄独特の文化として祖先を大切にしている精神が体现されているものと深く感心いたしました。このような仕事以外の様々なお話を事務長様にはたくさんしていただき、ここには書ききれないほどの貴重な情報を頂きました。本当にありがとうございました。

その他、白寿苑では実施できていない家族会の運営状況や活動報告書について備瀬介護サービス課長様から丁寧にご説明いただき、いずれ白寿苑でも導入していくきっかけとして活用させていただきたいと思いました。また、白寿苑でも行っている防災訓練についても参考になるお話を伺いました。各施設において有事の際に連絡を素早く回せるよう緊急連絡網を整備する事になってはいますが、実際に連絡を回そうとしたときにスムーズに回るのか、呼出をかけた場合に何人がどのくらいの時間で施設まで来ることができるのかといった運用の確認ができていない現実があると思います。本部園様では毎年1回夏場の午後8時に緊急収集の訓練を行っているとのことで、事前に連絡をしておくそうですが実際に当日は連絡があったら次の職員に連絡を回し、自分は施設に駆けつけて全員が何分まで来ることができるかを確認しているそうです。これにより得たデータを夜間想定避難訓練に活用し、より実態に即した計画で訓練が行えるという話でした。白寿苑でも行っておく必要があると感じました。

今回の研修期間中、山里理事長様、国吉施設長様にもお忙しい中多くのお話をしていただき本当に貴重な時間を過ごさせていただきました。皆様様に穏やかな雰囲気を持っておられて、利用者様と職員間のコミュニケーションが自然と暖かいものになっているんだなあ羨ましく拝見しておりました。昔からの顔なじみという間柄も数多くあると聞きました。利用者様が職員を呼ぶ際、職員同士が声を掛け合う際、名字ではなく名前ですべてを掛けあっている雰囲気もとても自然で、いかにも家庭の延長であるというのが表現されているかのようでした。かといって馴れ馴れしさは感じられず、逆に利用者様と職員との信頼関係がしっかり築かれており、それは理事長様、施設長様を含めて全員が同じ空間に居を同じくする家族であるかのような安心できる空間として映りました。これは本当に羨ましい事だなと感じました。白寿苑も同じような暖かい雰囲気作りに努力していきたいと気持ちを新たに致しました。本当に充実した中身の濃い研修ができました。ありがとうございました。

最後になりますが、施設における研修以外にも毎日のように事務長様にはお気遣いいただき、食事に誘っていただきましたのも重ねて感謝申し上げます。不慣れた土地で不安も多い中たいそう心強く、おもてなしの心に頭が下がる思いでした。参加した3名とも充実した研修になったことを感謝いたしております。このような機会を設けていただいた白寿苑の職員の皆様にも改めまして感謝申し上げます。ありがとうございました。



本部園研修報告書（主任介護士 安井 智宏）

まず初めに、忙しい中私達3名の研修を受け入れて下さった本部園の職員の皆様、また気持ち良く送り出してくれた白寿苑の皆様にお礼申し上げます。とても良い研修を行う事が出来ました。本部園での研修成果を白寿苑で活かす為に自分が学び、感じた事を報告させていただきます。

本部園で生活されている、ほとんどの利用者様、またその身内の方はほとんどが職員のご近所の方達やお知り合いだと聞き驚きました。介護をするに当たり一番重要となってくる情報収集、生活歴が分かり利用者本人、ご家族のニーズに対応した介護に活かす事が出来ると感じ白寿苑でも事前の情報収集や入所されてからも積極的にどんな情報でも集めていく必要があると思いました。

次に精神論として、白寿苑も目指している目標ですが、自分、身内がぜひ入りたいと思える施設作りを行っていく。その為には常に職員が専門性を高める必要があり、上へ上へと向かっていく向上心、現状で満足してはそこで良い施設作りは終了してしまうという危機感をもつ事が重要だと学びました。また利用者は人生の大先輩であり尊敬すべき相手という事を強く指導していると聞き、そういった教育は自分のこれからの大きな課題だと感じました。

次に全ての行事に対する残業は必ず振替休日を出し、時間内に業務を終えることを基本としている話も伺いました。それがプロ意識を持つことに繋がり、有給休暇を取得出来る環境が整っている、職員の処遇が向上する事により職員自身にやる気や、精神的・肉体的にも余裕ができ利用者の処遇の向上に繋がっていく、という相乗効果の話しを聞き、確かに余裕がない状態ではいかに介護のプロとはいえ、常に最高の介護は出来ないと思うので、そういった環境を少しずつでも良いので作っていかねばと感じました。

また、職員配置や土地柄の違いもあるかもしれませんが、職員の動きがとてもゆっくりしており慌てている様子を一度も見なかった所が印象に残っています。こうした雰囲気は今ある白寿苑の職員配置でどこまで近づけていけるかも考えていかなければならない課題だと思いました。

次に介護現場で非常に参考になると思った点の報告をします。

オムツ交換を二人で行っていると伺いました。これは怪我の予防の為にしているとの事でしたが、二人で行う事により先輩の介護技術を参考にすることが出来たり、一人ひとりがどうオムツ交換をしているかの再確認をする事もでき、介護技術の向上や統一に繋ぐ事が出来ると感じました。しかしながら全利用者を対象に行う事は様々な問題があり難しい為、方法を考える必要があります。二人で行うという事は現場としては負担がかかる事ですが、オムツ交換のみでなく移乗介助や入浴介助こういったところを再度ベテラン職員と共に出来る環境を整えられれば事故の減少、技術の向上に必ず繋がると感じます。

次に陰部洗浄は白寿苑でも行っていますが、本部園では液体石鹸を用いて行っていました。これは利用者の衛生保持にはとても効果があると思ったので是非取り入れたいと思います。

また入浴を週2日で全員入浴してもらい、入浴がない日に何か行ったり、ゆっくりと過ごしていただいたりしているのも可能であれば良い方法なのかなと感じました。従来型の濫觴館・尚歯館でこれを実施するのは難しい部分があるかもしれませんが、ユニットケアの寿考館であれば、入浴を工夫しもっと利用者に関われる時間を作れる可能性があるのではないかなと感じました。

また利用者一人一人の細かいチェック表が非常に充実しており感心させられました。一人一人の排泄チェック、車椅子点検表等、たいへん労力のかかる事ですが、意味のある事だと感じました。

次に白寿苑には無い勤務で良いと感じた職種の報告をします。まずは洗濯担当の職員。本部園では洗濯専用の職員（障害者雇用促進として）を配置し、乾燥機を使わず全て干していると聞き驚きました。確かに洗濯は夜間しかたむ事が出来ず、その間夜勤者一人に対応することになってしまうので日中ただただただの職員がいればかなりの業務軽減になると感じました。それに介護課長、介護

長、介護主任としっかり配置されており、介護に関する事は介護課長が統括しており、しっかりと業務の分担がなされていると感じました。

次にハード面、環境で良いと感じた事の報告をします。まずなんと言ってもすぐ外に海がある。これは真似のしようが無いのであきらめました。次はデイサービスに設置されていた喫茶カウンター、スペースがあれば非常に有効だと思いました。一番良かったのはこれもデイサービスにあった入浴場で温泉石を使用した準天然温泉で濫觴館のお風呂場改修のときに取り入れてもらえたら素晴らしいと思いました。



本当によい勉強になりました。ありがとうございました。

本部園研修報告書（サブリーダー 田中 祐治）

今回、個人的に課題を持ち本部園研修に赴き本部園様の職員の方と意見交換や業務を一緒に行い、大変貴重な時間を過ごさせていただきました。

・日勤帯、夜勤帯の職員配置について

日勤帯に関して、本部園様では南側居室の利用者様30名に対して日中は職員5名、パート職員3名で回しており、入浴日の入浴介助は4名で行いこれに対して見守りが4名残るため転倒等の事故はほとんど無いそうです。

尚歯館では利用者40名（ショートステイ利用者含む）に対して職員5名（ショート担当含む）で入浴介助に3名参加するため見守りが2名（うちショート担当1名）となるので事故は無くならないと感じました。改善方法としては、現在洗濯業務の方は1階で衣類を畳んでいるのですが2階食堂で利用者と一緒に畳んでもらえれば見守りもできることになり、職員1名がレクワークを行いながら廊下・フロアの様子も観察できるようになるので事故が減るのでは無いかと思います。日中レクワークができれば、利用者が退屈せず起きていられるため夜間徘徊や昼夜逆転の方も減ることになり、夜勤帯の事故も軽減できるのではないかと思います。

・事故報告後の対応

本部園様では事故報告後に緊急会議を行うそうです。報告書は各職員の確認欄があるため全員が目を通せるよう提出前に事前にコピーを取って配置しておくそうです。

白寿苑では、以前はコピーして全職員が目を通すようになっていましたが現在では提出前にコピーを取らずに出しているため、事故の発生自体知らない職員や事故後の利用者の状態がわからないまま介護に臨んでいるため処遇会の場で対策等の話し合いができない状態です。以前のように報告書のコピーが用意されて全職員の確認欄があれば確実に目を通し情報を共有した上で今後の対応、対策が検討できるようになると感じました。

・行事・イベントなどの企画から実施まで

行事やイベントは白寿苑のほうが多く実施できていると感じました。

本部園様では大きなイベント（夏祭り、クリスマス等）以外は外出程度だそうです。職員も白寿苑より多く配置している事もあるので、近くのスーパーへお連れして食材の購入や簡単な調理であればできるのではないかなと思いました。

・リーダー職員の役割

本部園様では全体的に現場で業務を統括できる立場として介護長が配置されており、北側居室、南側居室それぞれに主任が配置されていました。介護長は夜勤が無く常に日勤帯での業務とのこと

でした。副主任、サブリーダーといった中間の役職がないため、下からの意見が直接主任に言わなければならないなかなか意見が出て来ないそうです。

白寿苑では各館に主任、副主任、リーダー（ユニット、サブ）が配置してあるため役割が充実しているなど感じました。ただ、本部園様と同様に主任が夜勤に入らず日勤帯に常駐した方が職員の指導もできるし怠ける職員もいなくなると思うので検討してはどうかと思います。また、サブリーダーとしてパイプ役を果たせていなかった自分に気づかされたので今後は下の職員にも声掛けしながら意見をくみ上げていけるよう努力しなければいけないと感じました。

新人職員への教育については、本部園様では指導担当が固定されておらず、複数の職員に新人教育を担当させているとのことでした。白寿苑は教育主任が指導担当として配置されているので、その点はしっかり教育できているのではないかと感じました。

・他職種との連携方法

本部園様では、管理職会議、リーダー会議等は毎月1回行っており、その他の職員会議・処遇会議は随時と言うことでいつ行うかは決まっていないそうです。

今回、南側居室棟で研修をさせていただいて感じたことは、食堂の回りにケアマネ、事務所、相談員の詰め所が困むように配置されているため常に利用者の状態が把握でき、食事介助時には前述の職員の方も介護職員と一緒に介助や会話をしているので、利用者の見守りや状態・体調変化も理解できているので具体的な相談をしやすい環境だなと感じました。白寿苑でも他職種の方々にも業務の合間に各館に赴き利用者や職員と会話をする事で、利用者の状態把握及び職員間の意思疎通がはかれ、介護職員も気持ちが引き締まっていい介護ができるのではないかと感じました。

その他業務を見て感じたことでは、おむつ交換時に液体石けんを使うこと、体位交換を2時間おきに行うこと、入浴では脱衣場に職員用に水分補給ができるようお茶・コーヒーが準備してあることなどが白寿苑でも取り入れたいと思いました。本部園様では現在褥瘡の利用者はいらっしゃらないそうです。尚歯館ではおむつ交換時にお湯で洗浄していますが液体石けんが使用できないか、体位交換を2時間おきに行えないか等を検討していければと思います。入浴介助についても職員用・利用者用の水分補給ができないか話し合ってみたいと思います。

今回の研修で、いろんな話をしていた中で自分自身一番思ったことは、自分の考え・思っていることをきちんと言葉にして表現する、ということが大事であるということでした。言わずにいれば上司には伝わらないし、自分が言わないことで部下も言えなくなってしまう。わかってはいたことでしたが自分自身の経験が浅いのでこれまで言えずにいました。この研修を分岐点として、言いたいことは言葉に表し、そして自分の入りたいと思えるような施設作りや利用者からこの職員なら安心して任せられると思っていただけるような職員になれるよう今後も努力を重ね頑張っていきたいと思います。



研修風景



施設敷地から伊江島を望む



施設の職員さんと記念撮影



食事介助風景



デイルーム（奥には立派なステージ）



主任さん、実習生とレクワーク